

入力オブジェクトの選択

TNT 製品 Ver.2010 では、ファイルやオブジェクトを選択するインターフェースが Windows 7 や Vista のようになりました。〈オブジェクトの選択 (Select Objects)〉ウィンドウにあるこの新しい [閲覧 (Browse)] タブパネルを使うと、任意のディレクトリレベルに素早く移動して、表示や処理を行うオブジェクトを選択できます。さらに、「タイルセットの説明」ファイル (*.tsd) や、処理によってはタイルセットを含むディレクトリを選択することもできます。2009 以前のバージョンでのファイル選択では、現在位置に相対的に 1 つずつ上下にファイルの階層を移動するだけでした。新しい方法では、パスのどのレベルからでも上下に移動できるようになりました。選択ウィンドウには前回選んだファイルやオブジェクトへのパスが自動的に表示され、お気に入りフォルダを作成してそこからフォルダやファイル、オブジェクトを選択することもできます。処理結果の保存に関しては、テクニカルガイド「システム:出力オブジェクトの作成 (System: Create Output Objects)」をご覧ください。

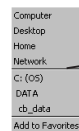
1. ナビゲートバー

「ナビゲートバー」は、ウィンドウの上半分のリストに表示されている内容のフォルダやファイルへのパスを表示するだけでなく、パスの任意のレベルから上下のレベルに素早く移動することができます。ナビゲートバーの一番左には、コンピュータ、ドライブ、フォルダ、ファイルの 4 つのアイコンのうち、いずれかがきます。アイコンの形によらず、その上でクリックするとディレクトリ構造の中を 1 つ上のレベルに移動します。アイコンのすぐ右にある矢印を押すと、コンピュータやデスクトップ、ホーム、ネットワークを含むドロップダウンメニューが表示されます (Mac のメニューでは、ネットワークは表示されません)。この下に表示される内容は、ディレクトリ中のカレントレベルやお気に入りリストに追加したものによって変わります。お気に入りリストに追加したものは、上記の 4 つのアイコンのすぐ下に表示されます。

矢印 ナビゲートバー上の矢印をクリックするとドロップダウンメニューが表示され、矢印の右側のディレクトリ階層が表示されます。例えば、ドライブを示す文字またはドライブ名の右側の矢印のメニューには、そのドライブのトップレベルにあるフォルダやファイルが全て一覧表示されます。矢印の右側にパスがある場合、そのレベルにある他のフォルダやファイルが表示されます。ディレクトリ階層を下っていくと、その項目の下にフォルダがある限り右側に矢印が表示されます。

ナビゲートバーの左端の矢印から下がるメニューには、他の場所のドロップダウンメニューにはない項目があります (図 2)。このメニューには、最後に選択したパスとそのパスを構成する各階層に直接ジャンプできるようになっています。

このアイコンをクリックすると、ディレクトリ構造の 1 つ上のレベルに移動します。



パス内の矢印をクリックすると、右側のディレクトリレベルを含んだドロップダウンメニューが表示されます。

コントロール+クリックで連続していないオブジェクトを選択できます (シフト+クリックで、クリックした 2 つのオブジェクトとその間にあるオブジェクトを全て選択します)。

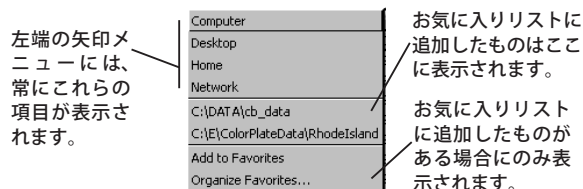


図 2



[お気に入りに追加 (Add to Favorites)] という選択肢は、ナビゲートバーの一番左の矢印から下がるメニューにしか表示されません。また、現在のディレクトリの位置が既にお気に入りリストに登録されている場合は表示されません。お気に入りの追加を行うと [お気に入りの整理 (Organize Favorites)] が表示され、順番や名前の変更をしたり一覧から項目を削除できます。

図 3




ナビゲートバーの右端には他より大きな矢印があります。この矢印をクリックすると、最近選択したパスの一覧が表示されます (詳しくは下記の「最近使った項目」を参照)。

フォルダやファイルの名前 矢印と矢印の間に表示されるドライブやフォルダ、ファイルの名前をクリックして移動することもできます。名前をクリックすると、階層中のその関連レベルに移動します。名前の右側にある矢印から下がるメニューに表示されるものと同じ項目が表示されます。

最近使った項目 上記の通り、ナビゲートバーの右端にある大きな矢印をクリックすると最近選んだ 20 個のオブジェクトのパスが一覧表示されます。この一覧は〈オブジェクトの選択〉ウィンドウを閉じると更新されます。このメニューには、TNT の全ての処理で同じものが表示されます。

2. その他のアイコン

 ナビゲートバーの右端には、[リフレッシュ]と[表示]という2つのアイコンがあります。[リフレッシュ]アイコンを押すと現在表示している一覧を再読み込みして、現在のディレクトリレベルに追加したものが一覧に反映されます。[表示]アイコンをクリックするとドロップダウンメニューが現れ、下の一覧にある項目の表示方法を選択できます。デフォルト設定である[詳細(Details)]を選ぶと、ディレクトリ内の各項目が一行で表示され、追加情報も合わせて表示されます。[一覧(List)]を選ぶと、現在のディレクトリレベル内の項目数が多くてウィンドウで1列に収まらない場合は段組して表示されます。3列に収まらない場合は、左右にスクロールバーを動かして項目を表示します。

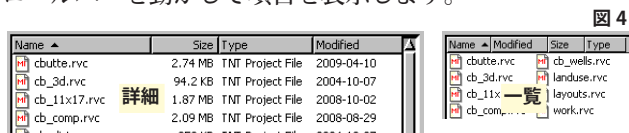


図 4

3. ディレクトリ一覧

<オブジェクトの選択>ウィンドウの[閲覧]タブパネルの一番上にある一覧には、ナビゲートバーのパスにおける最後の項目の内容が表示されます。ナビゲートバーの左にあるアイコンは、表示中のディレクトリレベルを示しています。例えば、最後の項目がプロジェクトファイルの場合、そのファイル内にあるオブジェクトが一覧表示されます。

ファイルやオブジェクトの選択 キーとクリックを組み合わせることで、この一覧から多数のファイルやオブジェクトを選択できます。シフト+クリックでは、**クリックした2つのオブジェクト間にある全ての項目を連続して選択できます。**コントロール+クリックでは、**クリックしたオブジェクト間にある項目を選ぶことなく複数のオブジェクトを一覧から選ぶことができます。**

コンピュータのアイコンがある場合、下にドライブのアイコンが一覧表示されます。

ドライブまたはフォルダのアイコンがある場合、下にフォルダやファイルのアイコンが一覧表示されます。

RVCファイルのアイコンがある場合、下にオブジェクトのアイコンが一覧表示されます。



図 5

並び替え ディレクトリ一覧内の見出しをクリックすると、並び替えに使用する列や一覧を並び替える順番を変更できます。現在並び替えの対象になっていない列の見出しでクリックすると、クリックした列を基準に一覧を並び替えます。既に並び替えた列の見出しをさらにクリックすると、並び順が変わります。並び替えの矢印が上向きの場合は、一覧は昇順に(AからZへ、小さいものから大きいものへ、古いものから新しいものへ)、下向きの場合は降順に並びます。並び順を示す矢印は、その時点で

並び替えに使われている列の見出しの上に表示されます。並び順はディレクトリレベルを変更するたびに名前による昇順に戻ります。

この矢印をクリックすると一覧の並び順が変わります。

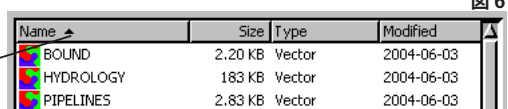


図 6

マウスの右ボタンメニュー 項目を反転表示した後にディレクトリ一覧でオブジェクト/ファイル/フォルダ上で右クリックすると、現在のディレクトリレベルやファイルタイプに応じて多数の機能が使えるメニューが表示されます。図7はプロジェクトファイルやオブジェクトに対して表示されるメニューです。TIFFやJP2などのTNTmipsで直接使えるファイル形式でも、[アクセスコントロールリストの編集(Edit Access Control List)]以外は同じものが表示されます。フォルダに対しては[名前の変更(Rename)]や[削除(Delete)]の他、[プロパティ(Properties)]というメニューがあり、WordファイルのようなTNT製品での使用がサポートされていないファイルタイプに関しても同じメニューが表示されます。プロジェクトファイルやオブジェクトのプロパティは詳しく表示されますが、サポートされていないファイルタイプに関してはそのファイルのディレクトリパスだけが表示されます。

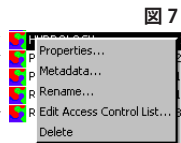


図 7

4. 選択済みパネル



<オブジェクトの選択>ウィンドウの[選択済み(Selected)]パネルは、5個のアイコンと使用中の処理で使うために選択したオブジェクトの一覧から成ります。選択しているオブジェクトが複数のファイルに渡っていない限り、ディレクトリ一覧で反転表示されていれば選択済み一覧に追加する必要はありません。

追加および消去アイコンと表示の変更 ディレクトリ一覧で反転表示したオブジェクトやファイルを選択済み一覧に追加するには、[追加(Add)]アイコンを使います。このアイコンは、ディレクトリ一覧で少なくとも1個のオブジェクトかファイルが選択されていない限り使用できません。[すべて追加(Add All)]アイコンを使うと、ディレクトリ一覧で反転表示しなくてもプロジェクトファイル中のすべてのオブジェクトやフォルダ中のすべてのファイルを追加できます。選択した項目にフォルダがある場合は[フォルダの追加(Add Folders)]ダイアログが表示され、どうしたいか尋ねてきます。表示された上の2つの選択肢から前回いずれかを選択している場合は、次にフォルダを含んだ選択を行う際にその時の選択が反映されます。

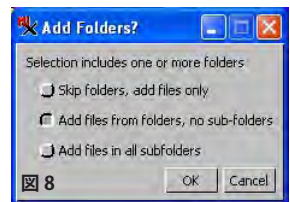


図 8

[消去(Remove)]アイコンは、選択済み一覧で項目が反転表示されている場合に使用できます。[すべて消去(Remove All)]アイコンを使うと、反転表示されていないに関わらず、すべての選択項目が消去されます。[表示]アイコンは、「その他のアイコン」で説明したのと同様に機能します。